

高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する最近の取組

平成27年11月
資源エネルギー庁

1. 科学的有望地の要件・基準の検討

- 昨年10月から、総合資源エネルギー調査会放射性廃棄物ワーキンググループ（委員長：増田寛也氏）及び地層処分技術ワーキンググループ（委員長：朽山修氏）において検討中。
- 地層処分技術ワーキンググループにおいては、地球科学を中心とする安全性確保の観点から検討中。本年6月から7月にかけて、地層処分技術に関連する学会等を通じ専門家への意見募集をした上で、9月に、それまでの検討の成果を整理。

2. 国民・地域の理解醸成

- 本年5月から6月にかけて、地域ブロックごとに全国9都市でシンポジウムを開催し、最終処分の必要性や基本方針改定の背景・内容について説明。並行して、都道府県ごとに自治体向け説明会も開催し、同内容について説明。また、関係機関の情報を一元的に提供するポータルサイトの立ち上げ等も実施。
- 10月は「国民対話月間」と定め、地域ブロックごとのシンポジウム（第2弾）や少人数ワークショップを開催するなど、様々な対話活動を実施。シンポジウムは、前回の参加者の声（地層処分の安全性に対する疑問や、国による一方的な押し付けを懸念する声）を踏まえ、「処分地の適性の考え方」及び「段階的な選定の進め方」を中心テーマに設定。

以上